

サービ斯拉ーニングを通して

社会福祉学部社会福祉学科 2年 岩野 誠也

活動先：NPO 法人 りんりん

クラス：松下 典子 先生

1. はじめに

私は今回の学生レポートを作成するにあたり以下の点でまとめていく。

初めに私がなぜサービ斯拉ーニング（以下 SL と略）クラスを志望したのかを述べ、そしてどのような気持ちで活動に臨もうと考えていたのかを述べる。続いて活動を通じての自身の成長と気づいたことで今後の課題を述べ、最後に活動を通して見えてきたことを、特に私たちはどのように地域活動に関わり、地域福祉を広めていかなければならないかという点でまとめていきたい。

2. SL クラスを志望した動機

私が SL クラスを志望した動機は大きく分けて二つある。

一つ目は地域福祉という領域に興味があったからである。私が地域福祉に興味を持った理由は一年次にゼミで無縁社会について学習したからである。無縁死や孤独死が日本の各地域で当たり前になっている事実に触れ私は他人事ではないと感じた。その中でも東京のような都会で特に多く、そのほとんどの原因が家族間の希薄、地域間の希薄が挙げられた。確かに無縁化になるきっかけを作ったのは本人かもしれないが、無縁死、孤独死まで加速させたのは、明らかに日本社会や各地域の自治体にあると私は考えている。特に自治体には地域住民の暮らしを守る責任があるため、無縁死や孤独死の被害を未然に防げなかったのか私は疑問に思う。援助対象が障害者や高齢者のような支援が明確な個人と違い、様々な人が住む地域だからこそ発見しにくいかもしれないが、人が生活する場所にも目を向けていかなければならないと私は思う。以上のように地域福祉は、まだまだ発展途上で変えていかなければいけないところが多々ある。だから私は、一年間の SL クラスで地域を舞台に働く NPO について学び、現場の人の情熱や援助方法を自分の体で感じたいため志望した。学んだことから地域福祉のこれからの可能性や援助の仕方を検討していきたい。

二つ目は二年生のうちに実習経験を他の学生より先に積めることはプラスになると考えているからである。なぜかというところ三年次になれば私たちは社会福祉士の資格を取得するために 24 日間の実習をしなければいけない。しかし二年次で実習を先にしておくことで今回の SL での反省を次の三年次の実習に活かすことができるため、より三年次の実習体験が有意義になると思う。特に私はこれまでにボランティアのような福祉体験が少なく、いきなり 24 日間の実習はとても不安であるため、まず 6 日間の実習で記録のとり方や担当者との連絡など実習を行う上での心構えも SL クラスで学んでいきたいと考えた。

3. 自分の成長と気づき

私が SL を通じて成長したと思うことはコミュニケーション能力である。活動先のりんりんでは、ホームヘルプ、デイサービス、学童保育と、それぞれ違った対象者を援助させてもらった。ホームヘルプでは、主に障害をもった方で部屋の掃除、食事等の介助をさせてもらった。私が援助する中で一番困ったのはコミュニケーションである。言葉が通じにくい相手にどのように自分の気持ちを伝えればいいのか、その時はわからなかった。特に食事の介助では利用者さんの栄養バランスやスピードに気をつけての援助で会話する余裕がほとんどなかった。食事が終わった後に「どのようにコミュニケーションをとればいいのか」担当者の方に聞いてみた。聞いてわかったことは、話しかけるのではなく、語りかけるように会話することで利用者さんに伝わるということである。その後語りかけることを意識したら、利用者さんの反応が見られた。日常での話口調ではなく福祉の現場では、むしろ相手に語りかけるように会話することが大切だと学んだ。

私が実習を通じて気づいたことに「発信する力」がある。これまで多くの研修生や日本福祉大学の SL を受け入れてきたりんりんは、ほとんどの実習生が実習で学んだことを発信することができていないと言われていた。かく言う私たちの班も、実習で学んだことを掲示物で発表する際に、その点で指摘をもらった。確認してみると確かに私たちの掲示は、多くがホームページ見れば書いてあることで、本当に自分たちで学び感じたことが書いてなかった。その後やり直し、一人ひとりの感想や気づきを盛り込み、自分たちの実習報告らしくなった。これから学年が進むにつれプレゼンが多くなることが予想されるため二年次に今回の指摘を受けたことは今後の参考になった。自分の感じたことを表現する「発信する力」を今後の課題にし、二年次の全体報告会よりいい発表ができるように伝えたいことを明確に何度もシュミレーションしていくことにしたい。

4. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私は SL 活動を通してわかったのは地域の成り立ちである。最初、孤独死や無縁死が起こる責任は地域の自治体が責任を怠っていると勝手に決めつけていたがそうではないと気づいた。本当に地域を動かし守っていかなければいけないのは、そこに住む住民だということである。住民が一致団結して、一つの問題に向かって解決に向かう姿が目指すべき地域福祉だと思う。そして NPO は住民が一致団結したまとまりだと私は思う。NPO は地域の人よりどころにあるため、ニーズに迅速に答えることができ様々な援助ができる。りんりんも、これだけ多くの事業を展開できたのも住民の支えと、ニーズに答えた支援が住民の信頼を勝ち取ったといえる。地域とは自治体と NPO と住民の三者で成り立ち、お互いが自立的につながり支え合っているのだとわかった。

5. おわりに

私は以上のことを知ったうえで、自分自身も地域と関わっていかなければならないと思

った。今は学生のうちに、地元地域での関わりは難しいかもしれないが美浜町内でできる奉仕活動を見つけたい。そしていつかは美浜町を第二の故郷と言えるように多くのことを残り2年間で学んで、たくさんの思い出を作りたい。

最後にSL活動をすることができて、とてもいい経験になった。営利を目的としないNPOはまさに地域福祉の目指す象徴だといえる。今後もりりんとも関わっていけたら思う。